

総合教育センターだより

平成13年12月10日発行 第82号

秋田県総合教育センター

F010-0101
南秋田郡天王町天王字追分西29番地の76
TEL 018(873)7200(代表)
FAX 018(873)7201
ホームページアドレス
<http://www.akita-c.ed.jp>

すこやか電話相談 018(873)7206
〃 0120-37-7804(フリーダイヤル)
インターネット接続 018(872)1065
ヘルプデスク 018(873)7210

～ NEW WAVES ～

総合教育センターの
新しい動き

■ 学力向上に資するために

初任者研修(小・中学校)における
算数・数学、理科の模擬授業の実施

■ 新たなセンターの役割として

小・中学校のセカンドスクールの利用の受け入れ

■ インターネット利用の高速化を図るために

秋田情報ハイウェイに対応するための
花まるっ教育ネットknaのシステム強化

教育コラム

総合教育センターの新しい動き

教育コラム

ようこそ総合教育センターへ

算数模擬授業模様

公開講演覚え書き

教育研究発表会速報

興味はありませんか
他県の教育研究

指導主事の横顔

Welcome to
電子顕微鏡 Room

お知らせ掲示板

未来に期待して

副所長 永井高道

閉塞感が取り払われ、明るい未来を開くことができるのではないのか、と多くの人々が期待した21世紀の初年も、20世紀がそうであったように混沌と悲憤のスタートとなった。前進しつつあった人類に、何を教示しようとしているのであろう。

社会の混迷が子供たちに色濃く作用し、安全で確実であった学校にも影を落としている。未来を担う子供たちに、たくましく創造力豊かな「生きる力」を、どのようにはぐくんでいくのか。私たち教育に携わる者の課題である。

当総合教育センターが、各校の諸問題に対応できる指導方法等を探求する講座設定に勤しんでいるのも、時代と共に歩まなければならない教育活動の一面を表出している。

当センターの講座を含めた諸研修が具体的な形になって、日常の指導に活かされてほしい。

当センターへのお問い合わせ・ご意見・ご要望はEメールもご活用できます。

■ 研修全般は…tch20400@akita-c.ed.jp

■ 情報教育は…kna@akita-c.ed.jp

■ 学習指導は…tch25295@akita-c.ed.jp

よつこそ総合教育センター

総合教育センターのセカンドスクールの利用



9月20日、21日の2日間にわたり、教育施設のセカンドスクールの利用の一環として、南外村立南外中学校の第3学年(2学級50名)による「スタデイイン総合教育センター」が行われた。

これは、① 総合教育センターの整った施設・設備を活用した学習によって高められた生徒の興味・関心が、その後の学校での学習により影響を与えること、② 生徒が、指導主事から直接指導を受けることにより、各自の学力や学習に向かう姿勢を見つめ直す機会になること、③ 教師が、指導主事の授業を参観したり、指導助言を受けることにより、指導力を向上させること等をねらいとしている。

総合教育センターでの日程の概要は、次の通りであった。

1日目の15:30から入所の集い、16:10から50分間2学級に分かれて数学と英語の授業を行い、夕食・入浴・休憩の後、19:30から21:00まで自学自習。その間授業者と指導主事による研究協議。

2日目は1~3校時に数学、保体、英語を、4校時は選択授業(社会、美術、理科<プラネタリウム、電子顕微鏡>)を行った。これらの授業は当センターの指導主事も担当した。4校時の選択授業の間、数学、保体、英語の研究協議を行った。昼食、退所の集いの後、次の目的地である県立博物館に向けて出発した。

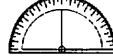
生徒の感想から ●●●●●

- ・先生方がいっぱいいて、ちょっとドキドキしながらの授業だった。学校の授業ではドキドキなんてめったにしないので、よい経験になった。
- ・学校以外で普通の授業をしたのは初めてで、ちょっと楽しかった。50分授業でも短いような気がした。
- ・今回の授業では理解できるまでいろいろな先生に教えてもらったのでよかった。
- ・今回、自学自習をして、やってみると解ける問題が多かったので、一人勉強(家庭学習)など、もっと多くやってみようと思った。
- ・これからはもっと先生に分からないところを聞きに行こうと思った。

教師の感想等 ●●●●●

- ・センターの指導主事と授業を中心に研究協議することで、普段の自分の授業を振り返り、反省することができた。また、指導主事の授業提示は、生徒の学力や学習意欲の向上を目指す授業の進め方の参考になった。
- ・センターでの授業は、生徒も教師も大変緊張したが、よい意味で刺激になり、意欲を持って学習に取り組む構えができた。
- ・盛りだくさんの内容で、日程がきゅうくつな感じもした。

学力向上に資する初任者研修講座の取り組み *** 算数模擬授業模様



【実施内容】

9月26日の初任者研修では、初任者が交替で先生役や児童役になり授業を行う、模擬授業研修を行った。

これまでは初任者の希望する教科で模擬授業を行っていたが、今年度は全員が算数の授業を行った。

これは、算数・数学科教育の現状から、児童・生徒に基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、県が重点的に算数・数学科の授業改善を推進している施策の一環として行われたものである。

当日は初任者が6班に分かれ、1人20分の模擬授業を行った後、県内の算数・数学の指導主事や秋大付小の先生を交えて協議を行った。

授業内容は「A数と計算」の領域から課題が多いと思われる単元を3つ指定し、その中から初任者が選んで行ったものである。

どの初任者も独自の教材・教具を準備し、課題設定や発問などに工夫が見られる授業を展開した。

【初任者の声】

◎ 稲川町立稲庭小学校

佐々木 ひとみ 先生

今回の授業を考えると、子供たちが意欲をもって取り組める工夫と「分かった」と実感できる授業の工夫が1時間の中に出てくるようにするにはどうしたらいいのか悩みました。

他の先生方の授業を見せていただくことにより、自分の目の向かなかったところが分かり、今後に生かしたいことばかりで、とても参考になりました。

◎ 比内町立扇田小学校

千葉 智 子 先生

子供の立場で先生方の授業を見させていただいたことがとてもよい勉強になりました。「こういった発問をしてくれると分かりやすい」とか、「具体物を使ってくれると楽しいな」とか、「授業の中で自分を生かしてくれと嬉しいな」などたくさんの感想をもちました。自分が感じた様々な思いを今後の授業でどんどん生かしていきたいと思います。

【講座を終えて】

初任者の感想にもあるが、今回の算数科模擬授業研修での成果として、次の3点が挙げられる。

- ①初任者全員が算数科の授業について、様々な工夫をし、それについて情報交換ができた。
- ②初任者が児童の役になることによって、児童の目で見たりよりよい授業の在り方を研修することができた。
- ③初任者全員が算数科の授業改善のポイントを研修することができた。

初任者が今回の算数科の模擬授業で得たものを学校での実践に生かし、児童が「楽しく、分かる算数の授業」に意欲的に取り組む姿を期待したい。

公開講演覚え書き

～総合的な学習の時間についての 上智大学教授 加藤幸次氏の講演を聴いて～

総合教育センター研修員 近藤 謙

「中・高の総合は進んでいない。」ポートフォリオを日本に普及させた教授の講演はこの言葉で始まった。さらに、「中・高は小学校に引っ張られすぎている。教師が本気で取り組まなければならない。」と鋭く指摘される頃には、教授の熱意に対し、申し訳ない気持ちになった。

今までは、自校の総合をどうするかといった狭い視野でしか考えていなかったが、発達段階や小・中・高の系統性を考慮する必要があることに気付かされた。この点について、中・高の総合が目指すべき方向性を、教授は次のように述べられた。

「生活や経験を重視したアプローチが多く行われている小学校に対し、中・高は教科担任制を強調し、すべての教科からアプローチしていく総合を開発する必要がある。」

それでは、自らの課題に取り組む総合に、教科の専門性をどう生かせばよいのだろうか。

教授が示した具体例は、次の通りである。まず、教師側で大テーマを設定し、体験活動を十分に行って興味・関心を喚起する。その上で、生徒と教師が話し合い、教科の専門性を生かした課題をつくる。もちろん、課題追究の場面でも教科の専門性を発揮していく。

中・高では、小学校で培った成果をさらに深化させるような総合を開発することによって、すべての教師を巻き込んだ活動を実現することができる。ただ、教師が本気で取り組むためには、教科の専門家として、自ら主体的に総合にかかわっていかうとする態度も重要だと感じた。そのような総合を実現することが、生徒の将来に生きる学習なのだと思う。

講演では、最後まで教授の熱意に圧倒された。今の私は、自信をもって「教科の専門家です」とは言えない。しかし、一日も早く、「教科も総合も専門家です！」と言えるような教師になりたいと強く思う。

教育研究発表会速報

秋田県総合教育センター主催

第16回 秋田県教育研究発表会

期 日 平成14年2月7日(木)～8日(金)
会 場 秋田県総合教育センター

記念講演

演題 「私に見えた秋田の県民意識」

講師 秋田公立美術工芸短期大学学長 石川 好 氏

日 程

	10:00	11:15	12:30	13:30	16:00	
7日(木)	受付	教育研究 奨励賞 授賞式	教育研究 発表会 開会式	・総合教育センターの 研究概要説明 ・各研修部の研究発表	昼食	分野別研究発表 (分科会)
8日(金)	9:30 受付	分野別研究発表(分科会)		12:00 昼食	13:10 記念講演	15:00

■総合教育センターの各部等が行う研究発表の概要

◆共同研究

【学級や授業における児童生徒の状況とそのとらえ方】

- ・「学級がうまくいかない」「授業がうまくいかない」状況には、複合的に問題要素が絡み合っていることが多い。そこで本研究では、本県の状況を概観するとともに、どのようにとらえ対応していくかについて提言をする。

◆教職研修部

【児童生徒一人一人が生きる学級経営の工夫】

- ・学級経営の基本的な考え方を明らかにする。
 - ・小・中・高等学校の教職経験者（5年経過）研修講座受講者にアンケート調査を実施し、それを基に学級経営の現状と課題を探る。
 - ・次の7つの視点で学級経営を充実させるためのポイントを示す。
- ①学級経営案と学級経営
 - ②学級目標と学級経営
 - ③教科指導と学級経営
 - ④道徳・特別活動と学級経営
 - ⑤教育課程外の活動と学級経営
 - ⑥生徒指導と学級経営
 - ⑦学級経営の評価



◆教科研修部

【児童生徒の基礎学力の向上を図る授業の在り方
—各教科の授業改善の工夫を通して—】

- ・本県の児童生徒の基礎学力の向上を図る授業の在り方を模索するために、これまでの調査、報告等を分析することにより、授業における実践上の課題を明らかにする。

◆情報教育研修部

【インターネット等の情報手段を活用した
特色ある教育活動の展開の在り方】

- ・県内小・中・高等学校における情報手段の活用の現状と課題を把握し、普通教室等での授業における情報手段の活用に向けた具体的な試案と留意点等を示し、特色ある教育活動を展開するための提言をする。

◆特殊教育・相談研修部

【特殊学級新担任への支援の在り方】

- ・特殊学級新担任が直面する困難点を調査分析し、そのニーズに対応した支援の在り方について探り、「特殊学級新担任用手引き」としてまとめる。

興味はありませんか

他 県 の 教 育 研 究

各都道府県には、秋田県の総合教育センターに相当する機関があり、教育研究や教員の研修などに当たっています。その各機関がよりよい役割を果たすために、協議会を組織して交流をしています。例えば、東北・北海道地区教育センター協議会という会があり、年に2回、持ち回りで大会を開催して研究発表や講演等による情報交換をします。今年度は秋田県が担当し、秋田市を会場に春季と秋季の大会を開催しました。

同様に全国的な協議会も行われており、今年度は北海道と青森県を会場に全国教育研究所連盟研究協議会が行われ、本県からも研究発表を含めて数名参加しました。

以下に協議会で発表された他県の教育研究をいくつか紹介します。

学校経営	特色ある学校づくりの推進に関する研究	相模原市立総合学習センター
	学社融合にかかわる公共施設活用実践事例研究	八戸市総合教育センター
教育方法・教育内容	「話すこと・聞くこと」領域における、対話活動を重視した音声言語指導に関する研究－視覚障害のある方との対話活動を取り入れた授業を通して－ (中)	青森県総合学校教育センター
	身近な自然に科学的な関心を高める探究活動の在り方に関する研究 －七時雨火山地質図の作製とその教材開発を中心に－ (中)	岩手県立総合教育センター
	日本の伝統楽器に親しませる指導の工夫 －和楽器「箏」の魅力を生かして－ (高)	福島県教育センター
	S評価－P計画－D実践による概念検証型の理科授業づくり (小)	福島県教育センター
	総合的な学習の時間における「知」の見取りに関する研究 －子供の活動の観察と聞き取り等を通して－	広島市教育センター
	地域素材を生かし、子供の豊かな心をはぐくみ学ぶ力を育てる小学校歴史学習の研究	青森県総合学校教育センター
情報教育	技術・家庭科の学習指導における有効なコンピュータ活用の研究	青森県総合学校教育センター
	インターネットを活用した教育情報データベースシステムの構築に関する研究	岩手県立総合教育センター
生徒指導等	子供が生き生きと支え合い、育ち合う学校づくりを目指して －人間関係及びリーダー性をはぐくむための体験プログラムの実践を通して－	佐賀県総合教育センター
	いじめに関する指導・援助方法の在り方 －構成的グループエンカウンター等の実践を通して－	茨城県教育研修センター
	引きこもり期の不登校生徒への教育相談活動の在り方 －マルチメディアの特性を生かした援助・指導を通して－	福岡県教育センター

※上記の研究に関するお問い合わせは、秋田県総合教育センターまでお願いします。

中川 一志

小学校初任研や5年研、小・中学校10年研などの年次研修を担当しているのは、センター勤務2年目の中川指導主事です。また、道徳教育、ふるさと教育も一手に引き受けています。

講座では受講者のニーズに応えるために、話の内容が理論的になりすぎぬよう、また学校での実践に役立つよう心がけているそうです。

現在単身赴任中で、週末に稲川町の家族のもとへ帰るのを楽しみにしています。前任の稲川町立駒形小学校では元気な4年生を担当していて、お別れ会での写真を今も大事に机の上に飾っているそうです。

信田 正之

センター勤務3年目の信田指導主事は表計算、画像処理、ネットワークの構築と運用からビデオ作成まで幅広く情報教育にかかわる講座を受け持っています。講座に当たっては、コンピュータ操作の技術研修だけに陥らないよう、情報教育や教科教育の本質を確認しながら進めています。

前任の角館高校では生物の教師、陸上部の部長、更にOBということも多く役目があり多忙だったとか。仙北町に住まいし、現在往復140kmの距離を通勤しています。休日は持ち帰りの仕事に時間を費やすことが多いものの、趣味のギターも楽しんでいるようです。

角田 昭

教科研修部の角田指導主事は主に理科の講座を担当しています。「科学好きを育てる理科の教材製作」「自然に対する関心を高める理科の授業」「理科で使うパソコン」「はるかなる星空の世界」「電子顕微鏡でミクロの世界へ」などです。これらの講座はできるだけ活動を取り入れ、授業で役立つようにしているそうです。

5年前センターに赴任しましたが、それまでは秋田市の飯島中学校でサッカー部の部長として活躍していました。監督と共に「サッカーを通して人間教育を」とがんばったそうです。今ではボールを蹴ることはなく、もっぱら読書に親しんでいるとか。今、はまっているのは池波正太郎です。

志渡 裕

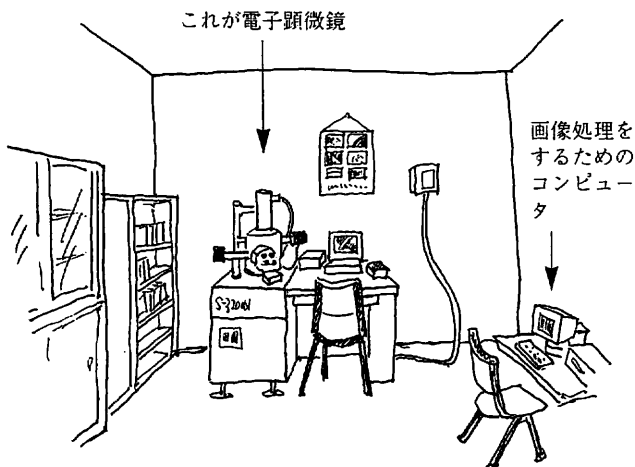
「障害のある子供たち、何らかの理由で困っている子供たちにとって学校が一層安心できる楽しい所になるように」と願っているのは、特殊教育・相談研修部の志渡指導主事です。

担当する講座は特殊教育学校初任研、特学新担任研修講座、障害の重い子供のコミュニケーション指導、情緒障害児等の理解と指導などです。特殊教育は今、戦後で最も変化する時期に入っているの、講座でその内容を確認するようにしているそうです。

秋田市の土崎出身。センターの前任校は秋田養護学校（肢体不自由養護学校）。子供たちや保護者に心の豊かさを教えられたとか。趣味は歴史地図や年表、郷土史関係資料などを見ること。

紹介
します
指導主事の
横顔

Welcome to 電子顕微鏡 Room



お知らせ掲示板

★☆☆プラネタリウム教室のご案内
 対象 児童生徒、保護者
 期日 1月8日(火)、9日(水)
 内容 冬の星座
 時間 1回目 10:00~11:00
 2回目 11:15~12:15
 受付場所 1階エントランスホール
 申し込み 不要
 ただし団体の場合は事前に連絡願います。
 ★☆☆ヘルプデスク(直通)のお知らせ
 「花まるっ教育ネットkna」への接続に関するお問い合わせは
 018-873-7210まで